

番号	著者名	書名	出版年	出版社	価格	本文 ページ数	やまむろコメント	採用期 1(2007後期) 2(2008前期) 3(2008後期)
1	福岡 伸一	生物と無生物のあいだ	2007	講談社 現代新書	740	260	ダイナミック・イクイリブリアム＝動的平衡。この着眼から社会というものをとらえてほしくて、この本を今期の冒頭に置きました。分子レベルで見た私たち生命体は、外界から隔てられた個物ではなく、たまたま密度が高いだけの分子のゆるい淀みに過ぎず、しかも絶えず高速で入れ替わっているような。生きているとは、いつも中身を入れ替え続けているということ。 「秩序は守られるために絶え間なく壊されなければならない」 そうなのか！ 興奮しました。これは生命体の理解だけでなく、社会や組織といった「人のあつまり」を理解するときにも使える、と。興奮のあまり、ちょうど執筆していた江戸の町の政治についての論文に、この発想を応用してみたら新視点の開拓に成功しました(たぶん)。今年の夏のできごとです。 生命体の話としてでなく、社会や国家に応用できないかと虎視眈々たるスタンスで臨むと、社会工学的に実り多いかと思います。第9章だけでもぜひ。	3
2	ジャレド・ダイヤモンド	銃・病原菌・鉄 上・下	2000	草思社	3800	619	人類の文明の始まりを地球規模でとらえるという大技をみごとに成功させた記念碑的達成。 大陸がタテに長いが横に長いが、そんな小さな偶然が人類の発展史の根幹を定める！ あざやかな洞察。	1
3	ジャレド・ダイヤモンド	文明崩壊 上・下	2005	草思社	4000	781	栄えたものは必ず滅ぶ。それぞれの文明の滅びの要因を環境との関わりで広く深くとらえるジャレドの史眼の冴えにうなずきつつ、すべてがレクイエムのように聴こえて、どこか悲しい。 モアイ・ピトケアン・アナサジ・マヤ・グリーンランド……最新の考古学がとらえた滅びの諸相を 宿命 と受けとるか 警鐘 と受けとるかは、読み手次第。大著だけれど、1章だけでも、じゅうぶんに分かる。じゅうにぶんに刺激的。	1
4	ブライアン・フエイガン	古代文明と気候大変動	2008	河出文庫	950	378	静かに溢れた北アメリカの湖が海流を変え、ヨーロッパに大干魃を起こし、農耕文明の端緒を開く。環境変動のなかで人類の営みをとらえる試み先史編。原題：The Long Summer	1
5	土取利之	壁画洞窟の音	2008	青土社	2200	169	3万年も昔の「音」を追いかけている学問があるなんて。 ラスコーにアルタミラ。動物の壁画が描かれたヨーロッパの洞窟にもぐって、音の反響具合を計測する。すると！ ほら、こう歩いてきて、あのバイソンの絵と目が合うあたりが、いちばん男の声が反響する場所なんだ。クロマニヨン人たちにとって、この洞窟は静かな美術館なんかじゃなく、自ら楽器を奏で、あるいは床や壁の石筈を叩いて、神の音に心ふるわせる魂のコンサート会場だったんだよ。 著者は学者ではない。パーカッションist。それもまた聞きどころ。	3
6	塩野七生	ローマ人の物語 ハンニバル戦記 上・中・下	1993	新潮文庫	1200	581	カンネからザマへ。戦術の天才ハンニバルが、ついにその牙を折られる時が来る。あれほどに鮮やかな包囲全滅作戦をあまた成功させてきた男が、まさにその同じ技を敵のスキピオにかけられて。 「ハンニバルの不幸は、優れた弟子が敵方に出てしまったことであつた」(下巻83ページ) ドラマティックな記述は一行もない。なのに、男たちの覇気と無念が、ありありと迫る。加えて、政治的要諦についての、本質を衝いた洞察。おじさんたちの愛読書ナンバーワンであるのもうなずける。ただ、そこは社会工学生たるもの、批判的に読まない(と蛇足ながら、この批判的スタンスは、同じくおじさんたちの愛読書である司馬遼太郎先生に対する時も必要)。 紀元前。ほんとにほんとに遠い昔の昔の象部隊のとどろきに思い馳せつつ。	1
7	塩野 七生	ローマ人の物語 ユリウス・カエサル―ルビコン以後 上・中・下	2004	新潮文庫	1314	718	壮年期にますます輝く。歩兵は敵の半分、騎兵に至っては七分の一。この戦力でどうやって勝つのか。BC48年8月9日ファルサルス平原。カエサル、ときに52歳。上巻145ページからスタートして100ページがかりで叙述される、この対ポンペイウス戦が、まず最初の読みどころ。 そして「来た、見た、勝った」(中巻冒頭)。一度は言ってみたいかも。 それにしても塩野さん、カエサルに惚れ込んだのと引き替えのように、クレオパトラへの筆はずいぶん冷たいですね。	3
8	スティーブ・J	旧約聖書のゲーム理論	2006	東洋経済 新報社	2800	353	なんてこと。ミステリアスであるべき聖書が、ゲーム理論でスパスバ切れちゃう。 この実を食べてはいけないよ。アダムとイブに警告するべきか否かが神様の選択枝。警告に従うべきか否かがアダムとイブの選択枝。ええっと、利得表にしてみよう。ツリーで書いてみよう。さあて支配戦略は？ そんな具合にカインとアベルが、十戒のモーセが、いろんなパターンのゲームを神様まじえてプレイする。いやもう、もし魔女狩りの中世に、こんな本を書いたら、火あぶり八つ裂き間違いなし。 でも、キワモノではありません(きっと)。へえ、こういう切り方もアリなのか、と社会や人間関係のとらえかたのサンプル集を眺める気分はどうぞ。何でも言葉で契約したがる聖書の世界は、あんがいゲーム理論的分析になじみやすいのかもね。 ちなみに著者のブラムスさんは、某M先生のお知り合いとか。	3

9	エリック・ジェイガー	決闘裁判 世界を変えた法廷スキャンダル	2007	早川書房	2100	277	1386年フランス。そんな遠いできごとなのに、決闘場の柵に顔を押しあてて、二人の騎士が槍と斧と剣で殺し合うようすが、まざまざと見えてくる。ストーリーの焦点に立つのは美しいマルグリット。自分に辱めを加えた狼藉者を絶対に許さない。「沈黙を破れば醜聞とさまざまな危険に襲われる」と承知で、敢然と行動を起こした女性。この時代において、自らを貫いた稀有な精神が「死闘の砂埃のかなたに、まぶしく輝く。ジャンヌ・ダルクより、凄いかも。	2
10	アルフレッド・W・クロスビー	数量化革命	2003	紀伊国屋書店	3360	352	数を数えるって何？ アラビア数字、時計に地図、遠近法に楽譜……いろんな近代的発明の根っこで起きた もののみかた 大転換をつかまえる。それはまさに 理系 なるものが誕生した瞬間なのだ。14世紀初めのヨーロッパ。	1
11	川北 稔	砂糖の世界史	1996	岩波書店	208	208	アジアのお茶とカリブの砂糖がイギリスで出会って世界が変わる。砂糖を基軸にコンパクトにまとめて便利だけれど、みんな白人が悪いのさ、という岩波流善悪史観にやや疑問も沸く。	1
12	山本紀夫	ジャガイモのきた道	2008	岩波新書	740	198	——ねえなんで「イモ娘」ってケナシ言葉なの？ おにいちゃん。 アンデスからヨーロッパへ、そして日本へ。毒のある悪魔の植物と恐れられたり、キノコの一種と勘繰られたりしながら、飢饉にも強い植物として、たくさんの人命を助けてきた。その足跡をワールドワイドに訪ね歩く。ちと教科書っぽいけど、食べ物で文明や国をつくるようすが、よく了解できる。 ——飢饉の時の間に合わせの食糧だから下に見るなんて思知らずだよな、いもうとよ。	3
13	浅原昌明	インド細密画への招待	2008	PHP新書	850	169	珍しさ、を推します。文章はキレもまとまりもないし、論点のしぼりこみもまだまだ。同じく絵をテーマとしながら、中野京子さんの筆のような絵の内面をえぐってゆく迫力には遠く及びません。 でも、とにかく珍しい。インドの細密画なんて、見たことない。象がごうごうと暴れ、クリシュナが牛飼いの女たちの裸身を愛でる。題材も珍しいけれど、描き方も珍しい。エジプト風の横顔なのに、向こう側の目が飛び出して見えるなんて、へんなの。 その「へんなの」が異文化理解の入り口につながる。絵が歌を表現してるなんて、想像できますか？ 本文はあまり気にせず、ばらばらめくって目に止まった絵の解説からどうぞ。	3
14	松村 伸	中華中毒	2003	ちくま学芸文庫	1500	428	ゴジラを引き合いに出して北京の都市計画を考える章がワザアリ(244ページ)。 10メートルもの巨大な怪石を庭園に並べて悦に入ったり、「気」の噴出する(はずの)穴の搜索に血道を上げたり、奇天烈中華のキテレツ趣味全開。パラパラ眺めて、へええと思った挿絵のところからどうぞ。 そうそう、少うしだけヤバイ絵があるので、小さなお子様の手の届かないところに保管してくださいな。	3
15	安達正勝	死刑執行人サンソン	2003	集英社	700	237	仕事として人を殺す。その不条理をプロフェッショナルとしての誇りを以て乗り越えていった、たくましく家系の男たちの肖像が、じつにいきいきと提供され、ギロチン華やかなフランス革命の奔騰のまっただなかに首根っ子ごと巻き込まれる。	1
16	安達正勝	フランス反骨奇人列伝	2006	集英社新書	735	205	昨年のサンソン人気にあやかってセレクト。革命期を生きた4名のいずれ劣らぬ気骨びと。太陽王ルイに、あるいはナポレオンに抗して敢然と己を枉げなかったところが、惚れ惚れと潔い。 とりわけ死刑執行人「大サンソン」の孫の懊悩のくだりは、しっかり作者の共感が乗っていて、ぐっと胸に迫ります。	2
17	中野京子	怖い絵 1・2	2007	朝日出版社	3600	481	絵は怖い。画家の辛辣な筆が、人の体の醜さを、人の心の卑しさを、これでもかと暴き出してしまいうから。 絵は怖い。人の醜さや卑しさをぞんぶんに暴き出した返す「絵筆」で、その絵を描いた画家自身の心に潜む憎悪や偏見をも、容赦なく暴き出してしまいうから。 好評につき続編もリリースされたばかり。本編では、ムンク、ゴヤ、ダヴィッドの「マリー・アントワネット」にラ・トゥールルの「いかさま師」が、とりわけ怖い。続編では、ブリューゲル「ベツレヘムの嬰兒虐殺」、サロメ、そして、ミスター・アルノルフィニの爬虫類の眼。 ばらばらめくって、気になった絵のところから中野流のホラー・ワールドへGO!	3

18	中野京子	ハプスブルク家 12の物語	2008	光文社新書	980	193	ハプスブルク。ヨーロッパに君臨した高貴なる青い血。驚鼻と受け口のこの一族は、スペインとオーストリアの王宮を二大拠点に、15世紀から19世紀までの長い長い期間、各国の王位を独占した。 贅美を尽くした肖像画のなかから、こちらを見つめる王侯たちのまなざしを受けとめつつ、ひとりひとりの人生を訪ねてゆこうという『怖い絵』の作者ならではの趣向。 同族結婚を繰り返し、新しい下賤な血が入るのを拒み続け、どろどろに濃くなってゆく血の果てに生み出されるあまたの虚弱・奇人、そして華やかな美女たちのドラマ。 器量も才能もないのに高貴な青い血だけは受け継いでしまったという苛酷な運命に、王家の人びとがどのように立ち向かったか。シシィことオーストリア妃エリザベート皇后の章が、とりわけ哀切。	3
19	スティーヴン・ジョンソン	感染地図 - 歴史を変えた未知の病原体	2007	河出書房新社	2600	261	1854年、ロンドン、コレラ禍。死神は井戸を伝ってやってきた。 いや、悪いのは空気でしょう、という先入観と科学的精神がいかに戦ったか。 私たちは、つい地図を眺めて「上から目線」でできごとをとらえてしまうけれど、現場を這いずりつつ、地図をつくることから始めた戦いの各シーンがスリリング。 歴史上の1エピソードと片付けず、都市なるものが今後どうなるか、著者はしっかり未来へと視線を向けている。	2
20	サイモン・シン	暗号解説 上・下	2007	新潮文庫	1219	636	つくる快感。解く快感。あなたは、どちら側の人間？ おなじみ踊る人形から始まって、鍵を独立宣言に隠したり、エニグマしたり、ナバホ族したり、アリスとボブの公開鍵に、今のはやはりは量子暗号。 いやもう、人間ってほんと、カクシゴトが好きなんだなあ、とそのために積み上げられた膨大な努力と叡智の大山脈に惚れ惚れ。あきれつつ縦走ください。	3
21	サイモン・ウィンチェスター	博士と狂人 - 世界最高の辞書OEDの誕生秘話	1998	早川書房	740	325	「第二独房棟の学者」。この言葉に反応したあなたは、ほんとうに世にも稀なる人物に面会を許されることになる。 警告：彼にナイフを渡してはいけない。 原題：THE PROFESSOR AND THE MADMAN この「and」は奥が深い。ひとりの人間のなかに博士と狂人のふたりが棲んでいるのだ。	2
22	フランク・ウィー	私はフェルメール - 20世紀最大の贋作事件	2007	ランダムハウス講談社	1800	281	17世紀の無名画家の絵を安く買ってくる→石鹸と水と軽石でいいいに元絵の絵の具を融かして除去→そのキャンパスの上に17世紀当時と同じ絵の具で新たに描く→特製の窯に入れて焼き、表面に亀裂を発生させる。 ほぼ、こんな工程で、ニセモノの名画ができあがってゆく。それに託した制作者の暗い情念。そして、はからずもナチスがからむことで、「これはニセモノなのだ」と制作者自ら証明してみせなければならなくなった稀有な巡り合わせ。 偉ぶった美術評論家を巧みに罠に誘い込んでゆくプロセスが痛快で、読み進むうちに贋作者メーヘレンの野望にどんどん肩入れしてしまう。ちょうど怪盗ルパンを応援したくなるように。 原題：I was Vermeer	2
23	ヨアヒム・フェ	ヒトラー 最後の12日間	2005	岩波書店	1900	242	史実を掘り起こした長めの章とそれを考察した短い章を交互に配置して、とある巨大な世界の崩壊の原因へと降りてゆく。ヒトラー＝大悪人と単純に塗り潰して満足する歴史観が、60年を経て、ようやく超えられようとしている。	1
24	ロバート・カー	シャドウ・ダイバー 上・下	2008	早川書房	1470	663	潜る。 不安定な装具に身を預け、おのれの体力と判断力と強運だけを信じて、ひたすら潜る。そうやって深海のUボートの謎を解き明かしてみせた男たち。 いやなにも、そこまでしなくても、とはらはらの連続の果てに。 ラストメッセージは、「来てくれてありがとう」	1
25	熊谷 徹	顔のない男	2007	新潮社	1300	198	今だから話そう、あの凄絶だったドイツ人同士のマジなスパイ合戦。 まるで映画みたい、なんて言っていられない胃の痛くなる神経戦が何年も何十年も続く。その場その場の心情が、当事者から引き出した証言によって跡づけられていて臨場感ありあり。全体としては重々しいけれど、律儀に誕生日を祝うドイツ人らしさが、スパイの身元発覚の端緒になってしまうなんて、小さな笑みも時には。 こんなことは、もう終わっているはず？ いや、南北コリアで、きっと。	3
26	ダニエルT. マックス	眠れない一族 - 食人の痕跡と殺人タンバクの謎	2007	紀伊国屋書店	2400	322	致死性家族性不眠症。時限スイッチが入って体内の殺人タンバクが暴れ始めると眠れなくなって悲惨な死に至る。ロザリオの祈りにすぎるしかなかったイタリアの名家の壮絶な宿命をひもときつつ、狂牛病へと説き及ぶ。 たくさんの人がこの病に関心を持ってくれないと、巨費を投じての新薬開発が進まない。ひそやかな串いを捨てて、PR戦術に転じたイタリアの一族の行動が何ともせつない。病気は、今や見世物なのだ。	2

27	高木 徹	戦争広告代理店	2002	講談社	619	405	世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。ほんとうの悪者はいったい誰？	1
28	ダン・トゥイー	トゥイーの日記	2008	経済界	1524	215	ブログじゃない。人に読まれることを想定していない日記は、自らを励ましたり、落ち込んだり、党への忠誠や恋心や、日々の正直な葛藤に満ちている。戦場という苛酷な環境だから、よりいっそう自省の刃が研ぎ澄まされるのか。 ベトナム戦争。戦場の医師として青春を送った彼女がアメリカ軍との戦闘で亡くなったのは1970年6月22日、享年27歳 そして35年という歳月をかけて、日記だけが母のもとに帰り、繁栄へと向かうベトナムでベストセラーとなった。	3
29	藤原章生	絵はがきにされた少年	2005	集英社	1600	229	1葉の写真で分かったつもりになってはいけない。「ハゲワシと少女」の裏側の物語をこうやって教えてもらえれば、確かにそう。けれど、世界は説明なしの写真であふれている。 せめて、簡単に分かったつもりにならないことで、しっかり現実を見据えよう。そんな気概で著者はアフリカの現実を歩く。	2
30	松本仁一	カラシニコフ	2008	朝日文庫	1200	528	今、アフリカはどうなっているのか。子供でも扱える銃の普及は、崩壊した社会の暴力を加速する。「植民地のほうがましだった」。第1章「少女兵」の話がつかかったら、第3章あたりから。 そして、アフリカメインだった第1部に続き、第2部は南米のコロンビア・パナマへ、アフガニスタンへと飛ぶ。 人が人をとても手軽に殺せてしまうAK47という武器は、世界をこんなにも荒廃させてしてしまうのか。	3
31	エレナ・ジョリ	カラシニコフ自伝	2008	朝日新書	740	234	彼の最初の発明はハンコ。書類を偽造するための。その発明によって家族ごと配流されたシベリアを脱出する自由を手に入れた。そして軍隊へ、銃の設計に没頭する日々へ。 「私は兵士たちに、彼らを裏切らない銃を贈ったのだ」。自らの発明の及ぼした、あるいは及ぼしつつある影響のとても大きい大きさを嘯みしめるかのように、83歳の老人ははしずかに来し方を語る。今やAK47は、自由を求める者の手にも、自由を抑圧する者の手にも標準装備されている。特許も取っていないかったそのAK47から、彼は1コペイカたりとも収益を受けとっていないという。	3
32	松本仁一	アフリカ・レポート	2008	岩波新書	700	199	『カラシニコフ』の著者が伝える最新のアフリカ情報。 失敗だらけの国づくり、たくましく中国人商人の展開など興味尽きないが、経済学を勉強している社会工学生なら、下記の2点をぜひ考えてほしい。 ジンバブエの惨状について、著者はインフレ率16万%、ハンバーガー1個が3000万ドルと紹介し、それもこれも権力が腐敗し、ムガベ大統領が私腹を肥やしたせいだ、と指弾する。 疑問1 物々交換が常態の国において、通貨を基準にした数値は、どれほど意味を持つのだろうか？ 疑問2 権力者がスイス銀行に隠し口座を持ったくらいで、国の富がすっからかんになってしまうものなのだろうか？	3
33	ジム・ワイヤー & ケヴィン・フリン	9.11 生死を分けた102分	2005	文藝春秋	1800	358	いったい何が起きたのか。誰にも分からない大混乱のなか、100階建てのツインタワーから逃げるための15000人の戦いが始まる。数百名の証言で織り上げた、あの瞬間。	1
34	アスネ・セイエルスタッド	カブールの本屋 - アフガニスタンのある家族の物語	2005	イースト・プレス	1800	356	アフガニスタンの首都カブール。当地ではそこそこ裕福な部類に属する一家庭に女性ジャーナリストが寄寓し、ブルカをかぶった女たちと寝食をともにして、ゆっくりゆっくり気持ちを聞き出した。このまことに稀有な取材を、ていねいに再構成することで、男たちの自負、女たちの忍耐のそれぞれが徐々に焦点を結んでくる。タリバン以後の、この社会における暮らしのありよう、幸せのかたちは？ 13人の家族の世話を一手に引き受け、土埃舞う部屋で黙々とタマネギ炒めをつくる黒い瞳のライラの運命にどうか耳を傾けてください。	2
35	石井光太	物乞う仏陀	2005	文春文庫	650	341	石井光太の視線は、正視するに耐えないものも鋭くえぐってゆく。25歳、6000ドルを握りしめて成田から出発して、カンボジア・タイ・ベトナム・インド... ...。救いのない現実の連なりに暗然。	2
36	石井光太	神の棄てた裸体 - イスラームの夜を歩く	2007	新潮社	1500	295	印税すべてを握りしめ、彼は再び旅へ出る。28歳になっていた。 またしても、凄まじい現場へ、強靱な精神力で立ち向かってゆく。	2
37	城山英巳	中国臓器市場	2008	新潮社	1400	220	社会の暗部。見ないで済むなら、そのほうがさいわい。 それでも、という方のみ、どうぞ。 厳罰主義の中国では死刑執行が年間千件(もしくは一万件=闇の数字)。ドナー確保に最適のビジネス・チャンスに、国が、医師が、そして(日本人を含む)患者たちがどう絡まりあっているかという鬱々たるお話です。	3

38	星野博美	転がる香港に苔は生えない	2000	文春文庫	990	620	ローリング・ホンコン。むしろ、爆発ホンコン。カッコつけてないのが、いい。飾り気がなくて、真真正直なのが、いい。憧れの美少年への恋心も、イケ好かない友人への辛辣な視線も、そのまま潔くぶちまけられ、読み手はいつしか香港の「炒(ちやう)」のただなかに巻き込まれている。たとえば電車のなかで見ず知らずの他人同士がおしゃべりしているのに、ふと聞き耳を立ててしまうかのように、623ページの、このぶあつい文庫本の、どのページでもばっと聞いて、とりあえず身を任せてみてほしい。ルボなんていう、気取ったひとごと視線でなく、血肉の一部としてのホンコンと格闘中の彼女に出会えるから。	3
39	小林紀晴	ASIAN JAPANESE 1	2004	新潮文庫	590	368	甘え、と言えるのかもしれない。自分探しと称して、いい若いもんが、アジアを何ヶ月も何年も、あてどなく放浪する。ニッポンと比べて物価がめっちゃめっちゃ安いから、できることだね。そんな若いもののひとりが、バンコクで、パリで、カトマンズで、彼らのポートレートを撮り、それぞれの胸の内を聞き出した。さらに帰国後の彼らにコンタクトして、その後の人生をまた撮った。引き続き自分探し中のひと、ちょびっと夢に近づいたひと。甘えとも、そうでないとも言切れない、いまだ旅の途上の彼らの言葉に、彼らのまなざしに、やはり自分探し中のこの場の読者さんたちが、ふっと感応するものがあれば幸い。	3
40	堤 未果	ルボ 貧困大国アメリカ	2008	岩波新書	700	200	サブプライムに不法移民、所得格差が拡大するいっぽうなのは国家がそう仕向けてるから。ワーキングプアはイラクで傭兵と化す。テロより怖い民営化。ばんばんばんと立て続けに見せられて、ここまでヒドいのか、と唖然。ちょっと片方の局面を強調しすぎだとは思うものの、そのぶん主張はわかりやすい。それがベストセラー街道覇進の理由か。そして、これが日本でベストセラーになるのは、明日は我が身の危機意識か、それとも、やあいアメリカン・ドリームも崩壊してるんだと野次馬的いい気分になれるからか。などなど、いろんな読みを引き受けられるパワフルな話題本。	3
41	アラン・ワイク	人類が消えた世界	2008	早川書房	2000	385	THE WORLD WITHOUT US——そんなもの、考えてどうするの？ これがすてきにおもしろい思考実験になる。 人類がいなくなれば、地球は人類登場直前の動植物の楽園に戻るかという.....否。生態系は不可逆。マンモスもマストドンも、もう戻らない。では、人類という重石が消えたあと、どんな動植物が我が世の春を謳歌することとなるのか。コヨーテ？ ニワウルシ？ たとえばプラスチックは永遠なり、なのか？ さらさらさらさら、海流に洗われたプラスチックは、今、砂粒のように細くなって海の墓場に溜まりつつある。地質学的な永い永い時が経てば、隆起と圧迫によって太古の樹木が石油に変化したような別の物質への変化が起きる.....かもしれない。 じゃあ、核汚染物質は？ 人類の不在を考えるとということは、今の地球上で人類が占めている場所の大きさや輪郭を考えてみることに同じ。だから世界史パートのラストに置きました。ちょっと読みにくい、ごつたい本なので、リスみたいに部分的にかじるのがオススメです。	3
42	海野一隆	地図に見る日本	1999	大修館書店	2600	194	半分だけだったり逆立ちしたり、奇想天外な日本認識コレクション。すべて見開きの右が地図、左がコンパクトな説明なので、展覧会気分で見回れる。なぜか近代になって正確になるほど、つまらなく見えてくるから不思議。	1
43	宮本常一	塩の道	1979	講談社学術文庫	800	192	問:あなたは海辺の民。たくさんできた塩を山の民のもとへと運んで売ってこようと思います。さて、牛と馬、どちらで運びますか？ 答:牛 理由:本書 56-59ページ 炉端の古老の昔語りを聞くように、古い日本の生活の断片がゆかしく蘇ってくる。	2
44	長野仁・東昇	戦国時代のハラノムシ	2007	国書刊行会	1000	97	戦国時代、病気は虫の形をしていた。鍼(はり)という武器をかざして奇天烈なモンスターに立ち向かった人々の心意気を感じつつ、とりあえず愛敬たっぷりのこいつらに爆笑。	1
45	藤木久志	雑兵たちの戦場	2005	朝日新聞社	1300	279	アフリカのどこですか？ いや、ニッポンの戦国時代の凄惨なダークサイドが綿密な史料考証に基づいて、じわじわと浮かび上がる。 「人取り」は奴隷狩り、「山あがり」は耕作放棄、「コカクセイ」は拉致されてきた朝鮮人少女たち。史料上の語句をひとつひとつ同定しつつ解析してゆく学究の文章は、地味だけれど、確かな裏付けのあることしか言うまいという静かな決意に満ちている。その営為の果てに、人身売買や略奪強盗は一部の乱暴者のしわざなどではなく、戦国社会を支える「サバイバル・システム」、すなわち、しっかり社会の土台を構成していたのだという瞠目の結論に至る。歴史研究とは、こうしたもの。その飾り気のない、みごとな好例。	3
46	太田尚樹	ヨーロッパに消えたサムライたち	1999	ちくま文庫	780	316	昔、支倉常長という侍がいた。仙台からメキシコを経てスペインへ、主君に命じられて大航海を敢行した。苦勞は実らなかった。しかしスペインには一行の子孫と信ずるハボン姓の人びとが今も暮らす。	1

47	タイモン・スクリーチ	江戸の大普請 - 徳川都市計画の詩学	2007	講談社	1800	263	イギリス人が花のお江戸を研究して、そのユニークな視点に乗って、いろんな珍しいところへ連れて行ってくれる。品川の大仏、吉原通いの水の道。しかし風水に毒されすぎていないかなあ、など、ちょっとイジワルだけれど、ほんとかな？ と疑惑のまなざしで読むとおもしろい。	2
48	大森映子	お家相続-大名家の苦闘	2004	角川選書	1400		きちんきちんと男子に恵まれるはずもないのに、制度は直系男子の相続が大前提。 さて、この矛盾をどうする？ 江戸時代のお殿様たちは、制度を変えるのではなく、タテマエとしての制度はしっかり維持しつつ、その裏側に、いろんな珍妙な切り抜け法を編み出した。年齢詐称に系図改竄、死亡日操作に替え玉提出。 そこまでしてタテマエを守り抜いた三百年であったのだ。カチンコチンの組織が窮屈になるとハンマーでぶっ壊して次を作ろうとするヨーロッパとは異なった日本らしさが見えてくる。	2
49	野口武彦	大江戸曲者列伝 - 太平の巻	2006	新潮新書	720	255	クセモノだ、出会え出会え～！ 「わらわへの直答はならぬ」と御奉行様にそっぽを向いて御白洲に座る自称日野家のお姫さま、天狗に乗って幽界へ行ってきたよと大得意で語る寅吉少年——泰平の世を思うがまま破天荒に生き抜いた、おもしろおかしい面々。 さてあなたは、どなたとお友達になりたい/なりたくないでしょうか？	2
50	堀井憲一郎	落語の国からのぞいてみれば	2008	講談社現代新書	740	202	落語をネタに、かるやかに江戸の昔と戯れているようにみせて、ときどきずしーんと人生観や世界観を投げ込んでくるところが達人のホリイさんのスゴいところ。 死ぬ者貧乏、死んだらおしまいってこと。名前だって、てめえひとりのもんじゃない。社会的責任が果たせなくなったら、ちゃんと返すのさ。個性？ 何それ。 時間は季節にあわせて伸縮自在。お天道様が出れば明け六つ。沈めば暮六つ。シンプルだろ。 ゼとカネは厳然と違う。銭は銅貨、ふだんお世話になるもの。カネは金銀、めったに拝めないおタカラ。おタカラは遠ざけておくもんだ。間違っても手に入れようなんてしちゃいけないぜ。必ず人死にが起きるから。 結婚？ よくぞ聞いてくれた。江戸の昔に見合いも恋愛もない。年頃になれば、いやおうなく結婚するばかり。独りでいるのはイケナイことだって、みんな信じてたからね。 などと、さくりさくり歯切れのよい洞察が続く。おあとはホリイさんから直接どうぞ。	3
51	辻 惟雄	奇想の江戸挿絵	2008	集英社新書	1000	173	風が、嵐が、爆発が、ダイナミックに画面を走る。あやかしの世界の霊たちは、すうっと薄墨で重ね塗りされ、あの世らしさをぞくりと伝える。 おそるべし江戸文化。こんなハイセンスな挿絵満載の読本と日々戯れていたなんて。 奇想には、奇想を以て対すべし。2008年前期の院生さんセッションでは、166ページの水滸伝シーンをEXILEの武道館公演と読み替えたプレゼンテーションが大ウケでした。	3
52	磯田道史	武士の家計簿	2003	新潮新書	680	203	埃まみれの古文書から微細にあぶり出される武士家族の収入と支出。維新を乗り切ったつましい暮らし。	1
53	大岡敏昭	幕末下級武士の絵日記	2007	相模書房	1400	189	34歳、独身、ヒキコモリ。なのに、なんと楽しそうな日々の語らい。 本を読んでは酒を呑み、花御堂をつくっては酒を呑み、いつも家族や友人に囲まれて。 ほのぼのテイストの絵日記が、いちどだけ突如、荒れたタッチに変わる。まるで、日々やりすごしていた心の深淵がこの夜だけはぽっかり口を開けたかのように。184ページ必見！	2
54	安藤優一郎	大名屋敷の謎	2008	集英社新書	700	187	ニンゲンのことを糞袋って言ったりしますが。 尾張藩江戸屋敷お出入り商人のナカムラさんにとって、屋敷に住むお殿様もその家族や使用人たちも、みーんな糞袋に見えたんだろうなあ、なんて、パッチイけれど、ほんとの話。ナカムラさんは尾張藩と交渉して、お屋敷から汲み取り権、すなわちを* * (ー敢えて伏せ字)を汲み取りをさせていただく権利を貰う。年間契約600両。これを近郊の農民たちに小分けにする。農民たちは汲み取った* *の量に応じて対価を物納する。久蔵どんはを干し大根2000本、治衛門はんは茄子350個といった具合。 はい、もちろん、* *にもランクがございます。お殿様のは上、町屋は中、裏長屋は下、野菜がすくすく育つかどうか、歴然と違いますのですね。 巨富を築いた下肥(しもごえ)ビジネス。花のお江戸の舞台裏は、こうやって回ってたんだ。	3
55	安藤優一郎	将軍御典医の娘が語る江戸の面影	2008	平凡社新書	700	183	浜御殿育ちのお姫(ひい)さま、御一新ですっかり零落して父とあばら屋で2人暮らし、日が暮れる。お姫さま、やむなく油を買いに出る。おどおどしてなかなか油屋さんに入れず、ようよう入ったあと、店に上がってしまっで「どうぞ油を少々いただきます」と振り袖姿でびたっと両手をついてしまったとか。 「あんなに大きなひつくりかえり」(byお姫さま)のなかで、出世したひと、反乱したひと、節を全うしたひと、いろんな人生の形が明滅する。	3

56	武内孝夫	こんにゃくの中の日本史	2006	講談社 現代新書	700	199	なぜに、こんにゃく!? これがなかなか侮りがたい。粉にして練って固めて……めっちゃめっちゃ手間のかかる、こんなミョーなものをなぜ日本人は食べようと思ったのか。幕末の常陸の国から出発したこんにゃく作りが、戦後、群馬県で大繁盛することになった裏には、東京という都市の復興計画があった、など「へえ～」がつぎつぎ、しらたきの如くたくり寄せられる。 作柄が不安定で、かつ「荒粉(あらこ)」という保存性のある形態に加工するため、生産者が投機に走り「こんにゃくはおもしろえ」となってこんにゃく産業が活性化したとか。ふうん。経済学の生きた実践例としても、しっかり読める。	2
57	藤森照信	明治の東京計画	2004	岩波現代文庫	1200	382	「このまま崩れてしまうのだろうか」が冒頭のじつに印象深い一行。 御一新で雑草だらけの田舎に帰するはずだった江戸を煉瓦の街へ、さらに「帝都」へと転生させた先駆者たち。	1
58	藤森照信・増	建築探偵 奇想天外	1997	朝日文庫	800	179	ニッポン全国洋館めぐり。 建てた無名の大工さんたちもエライ。 撮った写真家の増田さんもスゴい。 でも、かるがるとこの本質を衝いてしまう藤森さんの筆にぞこんです。 おもしろうて、ときに哀しく。「自分でも好きだったにちがいない日本の町を焼き払う計画に加わった」チェコスロバキアの建築家の心中を推し量ったくたり(59ページ)が泣けました。	3
59	沖浦和光	幻の漂泊民・サンカ	2004	文春文庫	657	364	サンカ。初耳ですよ、ね。もちろん。山に暮らし川に漁して、低地の農民たちとは別に暮らした人々。 社会の底辺の茫洋たる暗がりを学者の目で、ていねいに追ってゆきます。とりわけ、サンカ研究の草分けである三角寛が、いかに興味本位のずさんな考証で獵奇的な関心を煽ってきたかを痛烈に批判。 題材は興味深いのだけれど、論文スタイルなので、とっつきにくい。「私のこまゑじぶんの、苦勞話をせえいうことかのう」という光代はあちゃんの昔語り(331ページ)あたりが入りやすい入り口でしょう。	3
60	根本圭助 編	小松崎茂 昭和の東京	2005	ちくま文庫	1000	205	看板好きだったんですね。街並みを写しつつ、つい看板に目が行ったのは同業者意識か? ていねいなデッサンに導かれての浅草や銀座のレトロ散歩。全編ほとんど絵。	1
61	田辺聖子	田辺写真館が見た"昭和"	2008	文春文庫	600	221	ちょっとおすまし。写真館で撮った写真。 だから、この本の主人公は「家族」。写真技師の父が撮った妻や愛娘だから、笑顔がみんなやわらかい。その愛娘が長じて作家となって、家族や親戚や出入りの職人さんたちとの思い出をしっかりとまとめた。 戦争すらも、なつかし味にくるまれた昭和アルバム。	3
62	テッド・Y・フシ	バンクーバー朝日軍	2008	文芸社	1400	183	この一冊に賭けた思いのたけがハンパじゃない。 もう90年以上もの昔、はるかカナダの地にて、人種差別と闘いつつ勇名をとどろかせた日系移民の野球チームがあった。それが「朝日軍」。その歴史を、今ここに刻んでおきたい、なぜなら亡き父がそのチームのエースピッチャーだったから。 定年後、ようやく時間のゆとりを得て人生の宿願に取りかかったフルチトさんの気合いが、熱いスポーツ物をさらに熱くする。	3
63	ジョー・オダノ	オランダの中の日本	1995	小学館	2500	98	たぶん戦争体験って、こんなふうにししか手渡してゆけないのかもしれない。 ハエが真っ黒にたかったりんご(90ページ)とか、アルミニウムのお盆(30ページ)とか、そして彼の代表作と称えられる96ページの少年……痛みなしでは受けとれない。 写真の重み、それが語るドラマの重みを受けとめつつ、並記されている英語のコメントにも目をとめてください。それもまた、ジョー自身が刻んでいったたいせつなメッセージだから。	3
64	三島靖	木村伊兵衛と土門拳	2004	平凡社 ライブラリー	1400	323	ふたり並べてみたのがいいい。ひとりだったら神様のように平伏して拝むしかないけれど、超一流の、でも違うもの、時として対立すらしたものを右と左に並べて見比べることで、写真にこもっている魂の読み解き方が、少し分かってくる。	1
65	林 望	ついこの間あった昔	2007	弘文堂	1500	240	和服のおばあちゃんが茶の間で(!)新品の洗濯機のローラーを回して洗濯物をしばっている。手前には夕餉のしたく。そんなレトロ写真に、そう言えば夏休みに洗濯の手伝いで衣類を「のしいか」にするのは、けっこう楽しかったっけ、と著者自身の思い出を重ねる。 ありきたりの写真解説ではなく、個人の記憶と重ね合わせることで、昭和の内ぶとるに、より深く抱かれる。	2
66	木村 聡	赤線跡を歩く	2002	ちくま文庫	950	214	赤線、知ってますか? 花柳界、知ってますか? 買い手の男たちと、売り手の女たちの歓楽街の夢のあと。うち捨てられたモルタル造りに残る優美なフォルムのファサードやおしゃれなタイル貼りの円柱といった、小さな小さな痕跡をひとつひとつ拾い上げてゆく。正史には決して載らない日陰者だけれど、都市のかけがえのない一部として息づいていたもの。 門の上の木彫りの招き猫(153ページ)は往時、どんなドラマに立ち会ってきたのだろう。思い馳せるごとに、こうした面を視野に入れないのんきな町歩きが小学生の遠足に見えてくる。「親不孝通り」(118ページ)なんて名前、今も残ってるのかなあ。	3

67	実相寺昭雄	ウルトラマン誕生	2006	ちくま文庫	950	365	シュワッチ！ 変身したら、すうっと空に飛んで行ってほしいんだな、よいしょ、って感じじゃなくて、さ。注文を受けて特撮がんばる。トランボリン ×。ワイヤーで吊る ×。飛び降りたフィルムを逆回し ×。失敗また失敗の果てに、スタジオの隅にあった板の上にウルトラマンを立たせて、みんなでせいいのって板を持ち上げてカメラ前を通過させてみたら、うまく行っただ、って時代を経て、山一崩壊からライブドアへ。タイトルから予想されるモノモノしい概説ではなくて、むしろ経済界ウラバナシ集といった趣。週刊誌連載なのでトークも軽妙、どこからでも出入り自由。	3
68	野口悠紀雄	戦後日本経済史	2008	新潮選書	1200	237	この本を歴史書の仲間に入れるのは、さすがにムリあるでしょう。でもほら、カエサルや織田信長が重大な決断をするとき、何と何を秤(はかり)に乗せて、どんな思考を経て(あるいは、どんな感情にとらわれて)結論を出したのかをさぐる一助にはなりそう。楽しい実験例が豊富なので、ついつい呑み会などで話したくなるけれど、度が過ぎてウザがられないように、これを「後悔回避 regret aversion」と申します。	3
69	マッテオ・モッ	経済は感情で動く	2008	紀伊國屋書	1600	302	事例のおもしろさに、びっくりの連続。金箔屋さんがケータイ部品つくったり、精錬業が汚染土壌処理屋さんに転身したり、お酒を造りつつアトビーの子供のためのドリンクを開発したり。プロジェクトXのような熱血サクセス・ストーリーとは異なった、融通無碍で軽やかな現場からのメッセージ。	2
70	野村進	千年、働いてきました―老舗企業大国ニッポン	2006	角川one テーマ21	705	214	相撲協会とは、これすなわち250年も続いている格闘技ビジネスのシステムなり。実力主義なのに年功序列。神と崇められているはずの貴重な横綱の給料はたった282万円。年寄株に八百長と数々の特殊性に彩られたこの相撲産業を経済学の視点で分析すると、さてどうなるか。朝青龍がどうして品格がなくても平気でいられるのか、も分かります。	2
71	中島隆信	大相撲の経済学	2008	ちくま文庫	680	237	長い長いタイトルで埋め尽くされた表紙。なんとまあ、人を食った。いえ、これはひとさまにお料理を召し上がっていただくことに生涯を賭けた男の物語。そして、押さえどころは、これはサクセス・ストーリーではないこと。だからいっそう胸にしみる。	2
72	岡田芳郎	世界一の映画館と日本一のフランス料理店を山形県酒田につくった男はなぜ忘れ去られたのか	2008	講談社	1785	262	「都市のこの記憶喪失ぶりはほとんど狂気といえる」――現状への憤懣をぶつけつつ、おのが実践の足跡を熱く語る。風景学の先駆者にして社会工学科の大先輩の言、心して聞くべし。	1
73	中村良夫	湿地転生の記 風景学の挑戦	2007	岩波書店	2500	248	徳島県上勝町(かみかつちょう)。料理に添える葉っぱビジネスで、今やマスコミの注目の的。どん底から試行錯誤で、ついに頂点へ。ちょっと気恥ずかしくなるくらいに、絵に描いたようなサクセス・ストーリー。	2
74	横石 知二	そうだ、葉っぱを売ろう! - 過疎の町、どん底からの再生	2007	ソフトバンク クリエイティブ	1575	199	トカラ。沖縄と九州のあいだ。ボゼが棲んです。真っ赤なお面にウサミの。じゃがじま(臥蛇島)とか、こじゃがじま(小臥蛇島)とか、宝島とか、小宝島とか、あります。そんな観光気分だけでは済まない苦労が山ほどあるに違いない! 日本でいちばん細長い村! だけれど、そこは旅人さんのお人柄、岩場の湯溜まりにとっぴり漬かって、トビウオの魚醬づくりに没頭する新住民の身の上話など、なごやかに聞き出してきてくれます。	3
75	斎藤 潤	吐噏喇(とから)列島	2008	光文社新書	860	264	あいあむ、ぺんぎん。本名です。ほんとですってば。ぺんぎんなのに、南の島に住んです。そこで、あぶら、売ってます。ほんとですってば。	3
76	辺銀愛理	ペンギン夫婦がつくった石垣島ラー油のはなし	2008	マガジンハ	1500	117	のぼうさま。戦国時代の終わりに、ぬうっと現れ出た主人公の茫洋さ加減がスゴい。その類例のない人物造型を初めからゆっくり味わうのもよし、253ページからのクライマックスシーンをちょっと覗くだけでも。ニュータイプの歴史小説、その方面では、ただいま大ブレイク中。	3
77	和田 竜	のぼうの城	2007	小学館	1500	332	若だんなが通りますよー。なよなよと病弱だから、妖怪のお友達がぞろ～りぞろ～り付いてくるんです。あてになりそな、ならなそな。さてさて、花のお江戸を震わせた連続殺人事件の解決、首尾良くできるでしょうか。へっぴり腰で、ちっとも恰好よくないところが、ほっこり、いいね。	3
78	畠中 恵	しゃばけ	2004	新潮文庫	514	331		3

79	森見登美彦	有頂天家族	2007	幻冬舎	1500	353	この世の中は天狗と狸と人間から成り立っています。 三択だよ、って言われたら、何になりたいですか。 ゼツタイ狸を選びたくなる。狸になって偽獣電に化けて寺町通りを爆走して「それは阿呆の血のしからしむところだ」って何々大笑してみたくなる。たとえ狸鍋にされても。きゃーッ。 章ごとに独立でも読めます。	3
80	惣領冬実	チェーザレ 1～5	2006	講談社	3715	100	チェーザレ・ボルジア。500年前のイタリアに現れた、とてつもなく規格はずれの風雲児。その若き日々。ピサの町を舞台に暴れまわる凛々しさにほれぼれ。 BL？ と、と、と、とんでもない！ 全ラインナップで唯一のコミック版です。コミックなので、全ページ読んでも、100ページまでしかカウントしないというルールで宜しく。	3
81	カルロス・ル	風の影 上・下	2006	集英社文庫	1486	812	バルセロナ発ファンタジック・ミステリー。 「父につれられて、はじめて『忘れられた本の墓場』を訪問したあの夜明けのことを、ぼくはいまでもよく覚えている。」——この冒頭の一行に感応したら入ってみる価値あり。20ページまで進んでも、その熱が続いてたら、さらに深入りする価値あり。 つまみぐいしても、たぶん、おいしくないので、どしりと腰を据えてどうぞ。	3